

Divozafu



一緒に歌いませんか

Ensemble 14 では一緒に歌って下さる方を随時募集しております。
バッハが大好きな方はもちろん、バッハが初めての方も歓迎です。

合唱指導 辻 秀幸 先生
練習日 毎週土曜日（午前または午後）
練習場所 自由が丘、武蔵小杉など
お問い合わせ Tel：090-3816-2565（小林）
e-mail：info@ensemble14.org
ホームページ <http://www.ensemble14.org/>



第 16 回演奏会のご案内

2010 年 7 月 3 日（土） 紀尾井ホール
J.S. バッハ作曲
ミサ曲口短調 BWV232

後援： **JCDA** 日本合唱指揮者協会



Ensemble 14 / 15te. Konzert

2009.6.28(日) 14:30 開演
トッパンホール

Ensemble 14

本日はようこそお越しくございました！

私このホール大好きなんですが・・・ただチョッと舞台が狭いので、私の立つスペースをどう捻出するのか、はたまた出来るのか、やや気を揉んで本日を迎えました。

アンサンブル14のメンバーとの演奏を通して私は本当に多くの体験をしました。そして本当に良い関係を（彼らもきっとそう思ってくれている筈・・・だと良いんですが）、酒と歌と笑いで紡いで参りました。そんな演奏会も15回を迎え、次回はいよいよバッハのロ短調ミサ曲に挑みます。

勿論ソリストは内部からオーディションにより選出されます。因みに、今回の演奏会のソリストオーディションのゲスト審査員はオルガニストの能登伊津子さんでした！つまり彼女の任命責任の大きさは計り知れません！彼女は我々アンサンブル14第1回目の自主演奏会の時から陰に日向に個々のメンバーを、そしてこの声楽アマチュアアンサンブルの演奏会を支えてくださいました。

これからもこのオーディションには様々な演奏家をお呼びして、出来る限り私の個人的趣味嗜好だけに偏った審査が行われないようにと誓いを新たにしています。

彼らは今話題の35歳を中心とした、これからの日本を支えて行かねばならないジェネレーションの大切な方々です！しかし、であればこそ、彼らにどうして日本の経済が、政治が、年金が、社会の構図そのものが崩壊して来てしまったかを理解してもらいたいです。文化を疎かにする国には決してまともなリーダーは育ちません。芸術文化に接する機会をもてない人間の人生はつまらないどころか安定さえしないのです。10年前に不安定な職業の代表のように呼ばれていた我々自由業者は、今、実は砂の城であった堅実な筈の社会と、その路線の上にあった方々の様変わりした姿を呆然と観ています。

いえいえ、バッハを歌っているあなた方は大丈夫ですってば！その証拠に今日はまた新婚さんイラッシャーイみたいなステージになったじゃあ無いですか！

安全な道、間違いの無い生き方・・・そんなものは無いんですが、幸せな人生のヒントと答えは、バッハの作品の中に満載です。今日はお客様としてこの場にいらして下さった貴方も、幸せ探しに土曜のひと時を我々と過ごしませんか！？ 歓迎します！

辻 秀幸

プログラム
Programm

作曲 ヨハン・ゼバスティアン・バッハ
Johann Sebastian Bach (1685-1750)

カンタータ第62番『今こそ来てください、異邦人の救い主よ』

“Nun komm, der Heiden Heiland” BWV62

(2) 中西 隆紀 [T] (3) 木下 剛 [B] (4) 大内 良太郎 [B]
(5) 室橋 明美 [S] / 小田 奈穂子 [A]

カンタータ第46番『どうか目を留め、よく見なさい

これほどの痛みがあるものかどうか』

“Schauet doch und sehet, ob irgendein Schmerz sei” BWV46

(2) 小泉 孝博 [T] (3) 武内 崇史 [B]
(4) 柿原 紀子 [A] (5) 湊 佳代 [A]

～ 休 憩 ～

ミサ曲 イ長調

BWV234 Missa in A-Dur

(2) 菅野 総子 [S] / 小林 愛子 [A] / 成田 拓也 [T] / 三浦 貴博 [B]
(3) 菅野 松佐登 [B] (4) 子井野 真貴子 [S] (5) 小田 奈穂子 [A]
(6) 菅野 総子 [S] / 小林 愛子 [A] / 室橋 義明 [T] / 木下 剛 [B]

指揮 辻 秀幸

管弦楽 Millennium Bach Ensemble

声楽 Ensemble14

カンタータ第62番「今こそ来てください、異邦人の救い主よ」

Nun komm, der Heiden Heiland (BWV62)

用途：待降節第1日曜日

初演：1724年12月3日 ライプツィヒ

福音書：マタイ伝 第21章、1～9節（イエスのエルサレム入城）

書簡章句：ローマ人への手紙 第13章、11～14節（救いは近づいている）

ワイマール時代の代表作の一つ、カンタータ第61番と同じく、M. ルター作のコラール”Nun komm, der Heiden Heiland”に基づくコラール・カンタータ。冒頭合唱と終曲コラールは、ルターのコラールの歌詞をそのまま用いている。第2～5曲の歌詞はその改作（作者不明）とされており、いずれもキリストとその降誕について期待に満ちて語り、称える内容となっている。

1. コラール合唱 ロ短調

歌詞はルターのコラール第1節による。生き生きした器楽の伴奏に乗せ、ソプラノがホルンを伴って定旋律を奏で、下3声は行ごとに異なる音型で、ポリフォニックな模倣を繰り広げる。前奏および間奏で、通奏低音あるいはオーボエによるコラール定旋律が印象的に響く。

2. アリア（テノール）ト長調

キリストがこの世に下った奇跡への驚きを、終始喜ばしく踊るようなリズムで歌う。höchste（至高の）Beherrscher（統治者）という語は長いメリスマや伸ばす音によって強調される。

3. レチタティーヴォ（バス）

ユダ族の勇士としての、キリストのりりしい姿を語る。laufen（走る）はその語の通り、音階を駆け上がる。

4. アリア（バス）ニ長調

キリストの戦いと勝利を歌うアリア。前半は Streite（戦え）kräftig（力強く）という言葉通りにバスと通奏低音が力強いメリスマで掛け合い、最後のアダージョ部分のみ微妙に表情が変わる。後半は「私たちの弱さ」を表すかのようにやや控えめな音楽になるが、再び前半部を繰り返して終わる。

5. レチタティーヴォ（ソプラノ、アルト）

ソプラノとアルトがほぼ3度の平行をなしつつ、敬虔に語る。その歌詞は、馬小屋にキリストを尋ね当てた「東方の三賢者」を思い起こさせるものがある。

6. コラール（合唱）ロ短調

再びルターのコラール第8節の歌詞による。三位一体を賛美する簡潔なコラール。



1. Chor

Nun komm, der Heiden Heiland,
Der Jungfrauen Kind erkannt,
Des sich wundert alle Welt,
Gott solch Geburt ihm bestellt.

2. Arie (Tenor)

Bewundert, o Menschen, dies große Geheimnis:
der höchste Beherrscher erscheint der Welt.
Hier werden die Schätze des Himmels entdeckt,
hier wird uns ein göttliches Manna bestellt,
o Wunder! die Keuschheit
wird gar nicht beflecket.

3. Rezitativ (Baß)

So geht aus Gottes Herrlichkeit und Thron
sein eingeborner Sohn.
Der Held aus Juda bricht herein,
den Weg mit Freudigkeit zu laufen
und uns Gefallne zu erkaufen.
O heller Glanz, o wunderbarer Segensschein!

4. Arie (Baß)

Streite, siege, starker Held!
sei vor uns im Fleische kräftig!
Sei geschäftig,
das Vermögen in uns Schwachen
stark zu machen!

5. Rezitativ (Sopran und Alt)

Wir ehren diese Herrlichkeit
und nahen nun zu deiner Krippen
und preisen mit erfreuten Lippen,
was du uns zubereit;
die Dunkelheit verstört uns nicht
und sahen dein unendlich Licht.

6. Choral (Chor)

Lob sei Gott, dem Vater, ton,
Lob sei Gott, sein'm ein'gen Sohn,
Lob sei Gott, dem Heiligen Geist,
Immer und in Ewigkeit!

1. コラール合唱 (定旋律ソプラノ)

今こそ来てください、異邦人の救い主よ
処女 (おとめ) の子として知られ、
そのことを全世界が驚く、
神はそのような誕生を彼に定めたのです。

[[Martin Luther 作のコラール

《Nun komm, der Heiden Heiland》第1節]

2. アリア (テノール)

驚嘆せよ、おお人間たちよ、この大いなる神秘に。
至高の統治者がこの世に現れるということに。
ここで、天の宝が見出され、
ここで、私たちに神のマナ (*) が与えられる。
おお、奇跡だ！処女 (おとめ) の純潔は
全く損なわれてはいないのだ。

(* 旧約聖書『出エジプト記』中で、飢えたイスラエルの民
を救うため、神が天から降らせたとされる食べ物)

3. レチタティーヴォ (バス)

そうして 神の栄光と玉座から
神の独り子は出で来た。
勇士が、ユダの一族より突如現われ、
その道を喜びに満ちて走り
私たち、墮落した者たちをあがなってくたさるのだ。
おお 明るい輝き、おお 驚くべき祝福の光よ！

4. アリア (バス)

戦え、勝て、強き勇士よ！
私たちのために 肉体においても力強くあれ！
その手を休めるなかれ、
私たちの弱さの中にある隠れた力を
強くさせるために！

5. レチタティーヴォ (ソプラノとアルト)

私たちはこの栄光を敬い、
今こそ あなたの飼い葉桶に近づいて
ほめたたえます、喜びに満ちた唇で
あなたが私たちに用意してくださったことを。
暗闇が私たちをうろたえさせることはなく
私たちはあなたの絶えることのない光を見たのです。

6. コラール (合唱)

賛美が神に、父なる神にありますように、
賛美が神に、その独り子なる神にありますように、
賛美が神に、聖霊なる神にありますように、
常に、そして永遠に！

[同第8節]

カンタータ第 46 番 「どうか目を留め、よく見なさい
これほどの痛みがあるものかどうか」
Schauet doch und sehet, ob irgendein Schmerz sei (BWV46)

用途：三位一体節後第 10 日曜日

初演：1723 年 8 月 1 日 ライプツィヒ

福音書：ルカ伝 第 19 章、41～48 節（エルサレム崩壊の預言と神殿からの商人の追放）

書簡章句：コリント人への第 1 の手紙 第 12 章、1～11 節（霊的な賜物）

「罪のいましめ」について深く掘り下げた、ライプツィヒ初年度の作。福音章句はエルサレム崩壊の預言を述べたもの。歌詞作者（不明）はこれを手掛りに旧約聖書エレミヤ哀歌の聖句（神聖な都市の崩壊）を冒頭合唱に用いた。2 曲目以降は改悛しない罪人に対し、神の裁きを提示して、非難、訓戒、警告が歌われる。

1. 合唱 ニ短調

エレミヤ哀歌第 1 章 12 節を引用。下降音型を多用し、主の下された苦しみを歌う。前半部は「ロ短調ミサ」の Qui tollis に転用された。後半部、Jammers（苦悶、嘆き）の半音下降、grimmigen Zorns（激しい怒り）の臨時記号を多く伴う複雑な音型などに、言葉の意味合いが表されている。

2. レチタティーヴォ（テノール）

神の都の崩壊への嘆きが、器楽伴奏を背景に語られる。リコーダーのデュオが、16 分音符の音型で「涙の川」を表すモチーフを奏し続ける。

3. アリア（バス）変ロ長調

破滅を起こす雷光の到来を鮮やかに描き出す、力強いアリア。危急を告げるトランペットの下で、弦と通奏低音が、雷鳴と稲妻を表現する。Strahl（閃光）の長大なメリスマが印象的。

4. レチタティーヴォ（アルト）

神の罰に脅かされているのはエルサレムのみではない——。ここで視点は現在に向けられ、われわれへの警告が厳しい調子で語られる。

5. アリア（アルト）ト短調

通奏低音ではなく、オーボエ・ダ・カッチャのみの低声部の上で鳴るリコーダーは、よるべない、不安な信徒を表すかのようなものである。彼らを雛鳥のごとく守るイエスの愛が、暖かみのある音楽で歌われる。

6. コラール（合唱）ト短調

イエスの贖罪とその死に言及し、神に呼びかけるコラール。その音楽からは畏敬の念が強く感じられる。行間は冒頭合唱に似た音型のリコーダーの間奏でつながれていく。

1. Chor

Schauet doch und sehet,
ob irgendein Schmerz sei
wie mein Schmerz, der mich treffen hat.
Denn der Herr hat mich voll Jammers gemacht
am Tage seines grimmigen Zorns.

1. 合唱

どうか目を留め、よく見なさい
これほどの痛みがあるものかどうか
私を襲った痛みほどのものが。
主は私におびただしい苦悶と嘆きを与えたのです
その激しい怒りの日に。

『哀歌』第 1 章 12 節]

2. Rezitativ (Tenor)

So klage du, zustörte Gottesstadt,
 du armer Stein- und Aschenhaufen!
 Laß ganze Bäche Tränen laufen,
 weil dich betroffen hat
 ein unersetzlicher Verlust
 der allerhöchsten Huld,
 so du entbehren mußt
 durch deine Schuld.
 Du wundest wie Gomorra zugerichtet,
 wiewohl nicht gar vernichtet.
 O besser wärest du in Grund verstört,
 als daß man Christi Feind jetzt in dir lästern hört.

Du achtest Jesu Tränen nicht,
 so achte nun des Eifers Wasserwogen,
 die du selbst über dich gezogen,
 da Gott, nach viel Geduld,
 den Stab zum Urteil bricht.

3. Arie (Baß)

Dein Wetter zog sich auf von weiten,
 doch dessen Strahl bricht endlich ein
 und muß dir unerträglich sein,
 da überhäufte Sünden
 der Rache Blitz entzündend
 und dir den Untergang bereiten.

4. Rezitativ (Alt)

Doch bildet euch, o Sünder, ja nicht ein,
 es sei Jerusalem allein
 vor andern Sünden voll gewesen!
 Man kann bereits von euch dies Urteil lesen:
 Weil ihr euch nicht bessert
 und täglich die Sünden vergrößert,
 so müsset ihr alle so schrecklich umkommen.

5. Arie (Alt)

Doch Jesus will auch bei der Strafe
 der Frommen Schild und Beistand sein,
 er sammlet sie als seine Schafe,
 als seine Küchlein liebevoll ein.
 Wenn Wetter der Rache die Sünder belohnen,
 hilft er, daß Fromme sicher wohnen.

6. Choral (Chor)

O großer Gott von Treu,
 Weil vor dir niemand gilt
 Als dein Sohn Jesus Christ,
 Der deinen Zorn gestillt,
 So sieh doch an die Wunden sein,
 Sein Marter, Angst und schwere Pein;
 Um seinetwillen schone,
 Uns nicht nach Sünden lohne.

2. レチタティーヴォ (テノール)

そうやって嘆くがいい、打ち砕かれた神の街よ、
 哀れな石と灰の山よ！
 すべての川に涙を流せ、
 おまえを打ちのめしたのだから
 かけがえなき物の喪失、
 神の恩恵を失ったという事実が。
 そしてお前はそれを耐えねばならない
 その罪のゆえに。
 おまえはゴモラのように痛めつけられたのだ
 完全に滅ぼされはしなかったが。
 ああ、むしろすっかり滅ぼされた方が良かったのだ、
 キリストの敵が今、おまえの内で
 冒涇の言葉を口にすることを聞くよりは。
 おまえはイエスの涙には心を留めない、
 ならば、さあ（神の）激怒の荒波に心を向けよ、
 それは、おまえが自ら我が身に招いたものだ
 神は、多くの忍耐の末に、
 裁きの杖を下されるのだ。

3. アリア (バス)

おまえの雷雲が姿を現したのははるか彼方からだった
 しかしその閃光がついにおまえに襲いかかる
 おまえには耐え難いに違いない。
 積み重ねた罪が
 復讐の稲妻をきらめかせ
 おまえに破滅をもたらすのだから。

4. レチタティーヴォ (アルト)

だが、罪人たちよ、思い込んではいられない、
 ただエルサレムだけが
 他の多くの罪に満たされているなどと！
 おまえたちへの裁きを読み上げる準備はできているのだ、
 おまえたちは悔い改めることなく
 日々、その罪を積み重ねているのだから
 そしておまえたちは皆、おぞましい最期を迎えるだろう。

5. アリア (アルト)

けれども、イエスは罰の時にも
 敬虔な人々の盾となり、助けになろうとさせていただきます。
 イエスはあなた方を自分の羊のごとく、
 雛鳥のごとく、愛情をもって集めてくださいます。
 復讐の嵐が罪人たちに報いを与える時には、
 イエスは、敬虔な人々が安らかに暮らせるよう助けるのです。

6. コラール (合唱)

おお 誠の大いなる神よ、
 あなたの御前には誰も立つに値しません
 あなたの御子イエス・キリスト、
 あなたの怒りを鎮められた方以外には。
 ですからどうか彼の傷に目をお留めください、
 彼の受けた責め苦、恐れ、そして激しい苦痛に。
 彼のために、寛大な御心をもって、
 私たちにその罪の報いを受けさせないでください。

[Matthäus Meyfart 作のコラール

《O großer Gott von Macht》第9節]

ミサ曲 イ長調

Missa in A-Dur (BWV234)

成立：1738年頃 ライプツィヒ

バッハの属した、ルター派教会での礼拝で必要とされるラテン語ミサ曲のテキストは、具体的には Kyrie, Gloria, Sanctus のみであった。バッハはこのうち Kyrie と Gloria だけの作品を5曲書いている。その最初の作品は1733年に完成され、バッハは後にその作品に加筆する形で『ロ短調ミサ』を作り上げた。これ以外に書かれた同タイプの4曲が、現在いわゆる「小ミサ曲」(BWV233~236)として演奏される作品群である。

今回のミサ曲イ長調 (BWV234) は、管楽器パートに2本のフルートのみが用いられ、牧歌的な気分を持つ。第2、4~6曲の原曲が明らかなほか、第1、3曲も旧作からの転用と考えられる。

1. Kyrie (合唱) イ長調

最初の Kyrie eleison は、付点音符に彩られたのどかな4分の3拍子によるホモフォニックな合唱。Criste eleison では一旦流れが止まり、朗唱風に瞑想的な美しいフレーズを重ねていく。第2 Kyrie は再び軽やかな8分の3拍子の音楽となり、最初とは対照的な、活発な合唱フーガが展開する。

2. Gloria (合唱) イ長調

カンタータ第67番の第6曲の転用。16分音符音型の伴奏による4拍子の活発な部分と付点リズムによる落ち着いた3拍子の部分が頻繁に交替する。全体を通じ、神の栄光を賛美する明るさ・輝かしさに満ちている。

3. Domine Deus (バス) 嬰へ短調

独奏ヴァイオリンとバスの掛け合いが美しいアリア。バス声部は全体的に高音域で書かれ、ヴァイオリンと共に終始現れる印象的な下降音型とあいまって、甘美な印象を受ける。

4. Qui tollis peccata mundi (ソプラノ) ロ短調

カンタータ第179番 第5曲の転用。通奏低音は省略され、2本のフルートとユニゾンの弦が奏でる、非常に美しく清澄な響きにのせ、切々と祈りを歌っていく。

5. Quoniam tu solus (アルト) ニ長調

カンタータ第79番 第2曲の転用。落ち着いた音色ながら軽やかな弦の伴奏で、至高者たるキリストを称える。「ただ(あなた)だけが」を意味する solus が様々な形で強調される。

6. Cum Sancto Spiritu (合唱) イ長調

カンタータ第136番の冒頭合唱曲に基づく。短い荘重な導入部に続けて、器楽と合唱が一体となった華麗なフーガがたたみかけるように展開され、華やかに曲を閉じる。

[楽曲解説：室橋 明美]

※参考文献：『バッハ事典』(編著：磯山 雅・小林義武・鳴海史生／東京書籍)

『作曲年代順による バッハ教会カンタータ全集 別冊解説書』(編集・文責：日本コロムビア(株))

1. Kyrie eleison.
Christe eleison.
Kyrie eleison.
2. Gloria in excelsis Deo,
Et in terra pax hominibus bonae voluntatis.
Laudamus te.
Benedicimus te.
Adoramus te.
Glorificamus te.
Gratias agimus tibi propter magnam gloriam tuam.
3. Domine Deus,
Rex coelestis,
Deus Pater omnipotens.
Domine Fili unigenite,
Jesu Christe.
Domine Deus,
Agnus Dei,
Filius Patris.
4. Qui tollis peccata mundi,
miserere nobis.
Qui tollis peccata mundi,
suscipe deprecationem nostram.
Qui sedes ad dexteram Patris,
miserere nobis.
5. Quoniam tu solus sanctus,
Tu solus Dominus,
Tu solus Altissimus Jesu Christe.
6. Cum Sancto Spiritu in gloria Dei Patris.
Amen.
1. (合唱)
主よ 憐れみをください。
キリストよ 憐れみをください。
主よ 憐れみをください。
2. (合唱)
天の神には栄光。
そして地上には善良な人々に望まれている平和。
私たちはあなたを称賛します。
私たちはあなたを祝福します。
私たちはあなたを崇拜します。
私たちはあなたを誉め讃えます。
あなたの大きいなる栄光故に私たちはあなたに感謝します。
3. (バス独唱)
主なる神よ、
天の王よ、
全能の父なる神よ。
神の一人子として生まれた主よ、
イエス・キリストよ。
主なる神よ、
神の小羊よ、
父なる神の子よ。
4. (ソプラノ独唱)
人々の罪を受けてくださるあなたは、
私たちに憐れみをお与えください。
人々の罪を受けてくださるあなたは、
私たちの謝罪を引き受けてください。
父なる神の右に居られるあなたは、
私たちに憐れみを与えてください。
5. (アルト独唱)
あなたは唯一人の聖者、
あなたは唯一人の主、
あなたは唯一人の非常に崇高なイエス・キリストであるから。
6. (合唱)
父である神の栄光に聖なる精霊とともに。
真に。

(アット・プリモ「わかって歌おう」シリーズ
レクイエム発音講座 -ローマ・カトリックの流れに基づく- より)



■指揮 辻 秀幸

Ensemble 14 指揮者。東京芸術大学声楽科卒業 及び 同大学院独唱科修了。声楽を渡邊高之助、宗教音楽を小林道夫、佐々木正利の各氏に師事。1985年イタリアのミラノを中心にヨーロッパへ音楽遊学。L. グッアリーニ女史、F. タリアヴィーニ、H. リリングらの各氏に師事。1986年イタリアのノバラ市国際声楽コンクール入賞。同年ドイツのハイデルベルク、1988・89年にはウィーン楽友協会大ホール、2000年にはカイザースラウテルン、パッサウ他、数都市でベートーヴェン"第9"のソリストを務め、ヨーロッパ各地でコンサートに出演し好評を博す。国内でもドイツ・イタリア・日本歌曲を中心に各地でユニークなリサイタル活動を展開している。オペラにも数多く出演し、その優れた演技力と歌唱は、新聞・音楽誌上でも度々絶賛された。宗教音楽の演奏家としての活躍は特に目覚ましく、バッハ・ヘンデル・ハイドンの宗教曲・オラトリオの演奏では、ソリスト・エヴァンゲリストまた指揮者として、その活動は常に注目を集めている。現在指導に当たるアマチュアコーラスは十数団体を数える。洗足学園音楽大学講師、尚美学園大学新音楽集団「匠」指揮者、ぐるーぶ・なべ幹事、日本合唱指揮者協会会員、アンサンブル《BWV 2001》メンバー、iARTS 理事、NHKラジオ「みんなのコーラス」レギュラー解説者。共著に「わかって歌おうーレクイエム発音講座」、「フィガロの結婚 発音講座」等がある。

辻 秀幸 公式サイト <http://www.davide-hide.com/>

■管弦楽 Millennium Bach Ensemble (ミレニウム・バッハ・アンサンブル)

2000年4月に田園調布教会で行われた「マタイ受難曲」演奏会において辻秀幸先生の呼びかけにより結成される。各方面で活躍中の若手演奏家からなる器楽団体。第2回演奏会以降、Ensemble 14 との共演が続いている。

| | | | |
|--------|--------------|--------|--------|
| ヴァイオリン | 大西 律子、磯田 ひろみ | ヴィオラ | 山本 法子 |
| チェロ | 高群 輝夫 | コントラバス | 原田 遼太郎 |
| オーボエ | 板谷 宏美、斎藤 由紀 | ファゴット | 井上 直哉 |
| フルート | 西村 いづみ、三枝 朝子 | トランペット | 平井 志郎 |
| オルガン | 能登 伊津子 | | |

■声楽 Ensemble 14 (アンサンブル・フィアツェン)

辻秀幸先生のもとでJ.S. バッハのカンタータを歌うアマチュア合唱団。1998年8月結成。ソリストは団内から選出し、プロのオーケストラ（現代楽器）と共演する演奏スタイルで、東京周辺にて活動。

指揮者：辻 秀幸 練習ピアニスト：田城 章子
代表：武内 崇史 副代表：小林 尚弘、三浦 貴博
練習指揮：椿山 俊和、菅野 松佐登、木下 剛、小田 奈穂子
会計：柿原 紀子

| ソプラノ | アルト | テノール | バス |
|---------|--------|-------|--------|
| 浦沢 千代 | 上田 暁子 | 小泉 孝博 | 大内 良太郎 |
| 江崎 美津子 | 小田 奈穂子 | 佐藤 容司 | 木下 剛 |
| 河野 優子 | 柿原 紀子 | 椿山 俊和 | 小林 尚弘 |
| 川村 昌子 | 小林 愛子 | 中西 隆紀 | 菅野 松佐登 |
| 子井野 真貴子 | 竹内 望 | 成田 拓也 | 武内 崇史 |
| 崎谷 芳恵 | 中井 杏瞳 | 室橋 義明 | 次田 章 |
| 菅野 絵子 | 濱口 可奈子 | | 三浦 貴博 |
| 高橋 磯美 | 湊 佳代 | | |
| 室橋 明美 | | | |
| 孟 繁杰 | | | |

【 Ensemble 14 過去の演奏会 】

- 1999年4月 マタイ受難曲の抜粋演奏（ピアノ伴奏）に、「マタイを歌う会」とともに出演
（日本基督教団 奥沢教会）
- 1999年9月 第1回演奏会 カンタータ第150番、第155番、第106番
（ルーテル市ヶ谷センター）
- 2000年4月 マタイ受難曲の全曲演奏に第2コーラスとして出演
（日本基督教団 田園調布教会）
- 2000年9月 第2回演奏会 カンタータ第196番、第131番、第182番
（神奈川県民ホール 小ホール）
- 2001年3月 第3回演奏会 カンタータ第22番、第48番、第23番
（すみだトリフォニーホール 小ホール）
- 2001年9月 第4回演奏会 カンタータ第1番、第27番、第140番
（川口総合文化センター リリア音楽ホール）
- 2002年3月 第5回演奏会 カンタータ第36番、第61番、ミサ曲ト短調
（三鷹市芸術文化センター 風のホール）
- 2002年9月 第6回演奏会 カンタータ第5番、第47番、第70番
（四谷区民ホール）
- 2003年5月 第7回演奏会 ヨハネ受難曲
（津田ホール）
- 2004年3月 第8回演奏会 カンタータ第17番、第44番、第139番、モテット BWV227
（三鷹市芸術文化センター 風のホール）
- 2004年9月 第9回演奏会 カンタータ第4番、第6番、ミサ曲ト長調
（横浜みなとみらいホール 小ホール）
- 2005年9月 第10回演奏会 マタイ受難曲
（日本大学 カザルスホール）
- 2006年6月 第11回演奏会 カンタータ第8番、第99番、第105番、第187番
（上野学園 石橋メモリアルホール）
- 2007年2月 第12回演奏会 サンクトゥスニ長調、カンタータ第10番、マニフィカト変ホ長調
（上野学園 石橋メモリアルホール）
- 2008年1月 第13回演奏会 カンタータ第116番、第72番、第144番、第104番
（津田ホール）
- 2008年11月 第14回演奏会 カンタータ第12番、第78番、第147番
（川口総合文化センター リリア音楽ホール）

Ensemble 14（アンサンブル・フィアツェン）

第15回 演奏会プログラム

発行日：2009年6月28日

発行元：Ensemble 14

校正：柿原 紀子、中西 隆紀

作成：北郷 博美

●無断転載・複製を禁じます。

©All rights reserved Ensemble 14